



いちき串木野市医師会 広報誌

医師会立脳神経外科センター



a joint undertaking

vol.11

平成28年5月16日発行

ちくら

医療コラム

おしえて! **ドクター**

知ってるようで知らない お肌の知識

野辺ひふ科クリニック
野邊修明先生

P4・5

平成28年度新入職員紹介 P2・3

みんなの元気を支える 施設紹介 P6・7

知っておきたい専門職の仕事 P8

病院における認知症を有する患者さんへの支援 P9

みんなの掲示板 P10

編集後記 P10



撮影場所 吹上浜



言語聴覚士
向井 優善

- ①鹿屋市
- ②鹿児島第一医療リハビリ専門
学校
- ③十人十色
- ④スポーツ（サッカー、水泳、
バドミントン）
- ⑤笑顔でいること
- ⑥織田信長
- ⑦患者様に迷惑をかけないように、
1日でも早く業務に慣れ、
どんなことがあっても常に笑
顔でいられる言語聴覚士にな
りたいと思います。



看護師
内田 千尋

- ①薩摩川内市
- ②神村学園
- ③笑う門には福来る
- ④音楽鑑賞
- ⑤粘り強い
- ⑥高校の友人
- ⑦一日も早く仕事に慣れて、一
生懸命頑張りたいと思います
のでよろしくお願いします。



看護師
村濱 隆行

- ①薩摩川内市
- ②川内看護学校
- ③七転び八起き
- ④子どもと遊ぶ
- ⑤忍耐力
- ⑥父親
- ⑦准看護師から5年間学校に行
かせて頂き、今年看護師免許
を取得することが出来ました。
今後は看護師として、しっか
りとした知識、技術を習得し、
思いやりのあり信頼される看
護師になりたいと思います。
今後ともよろしくお願い致し
ます。

- ①出身地
- ②出身学校
- ③座右の銘・好きな言葉
- ④趣味・特技
- ⑤自分の長所
- ⑥尊敬する人
- ⑦抱負

平成28年度 新入職員紹介

今年度は、9名のスタッフが当センターに入職しました。

研修など積極的に参加し、充実した日々を送っている9名をここで紹介したいと思います。



言語聴覚士
栗山 知里

- ①さつま町
- ②鹿児島第一医療リハビリ専門学校
- ③一期一会
- ④歌を聴く、歌う
- ⑤立ち直りが早い
- ⑥専門学校の先生
- ⑦至らぬ点ばかりだとは思いますが、自分なりに頑張り、信頼される言語聴覚士になりたいです。これからもよろしくお願いします。



作業療法士
大迫 洋介

- ①いちき串木野市
- ②神村学園
- ③継続は力なり
- ④バスケット
- ⑤忍耐力がある
- ⑥志村部長、松岡修造
- ⑦一日も早く仕事を覚え、今まで培ってきた知識や経験を活かしつつ自分にできることを精一杯頑張り、患者様に還元できればと思います。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いします。



作業療法士
下野 竜二

- ①南九州市
- ②原田学園 鹿児島医療技術専門学校
- ③謙虚、素直、感謝
- ④空手、スポーツ全般が好きです。
- ⑤明るい
- ⑥両親
- ⑦一日でも早く、患者様や職員の方から信頼される作業療法士になれるよう、一生懸命頑張ります。気軽に声をかけて下さい。



作業療法士
内 義文

- ①鹿児島市
- ②鹿児島医療技術専門学校
- ③苦があれば楽あり、楽あれば苦あり。
- ④パソコン、物をつくること
- ⑤前向きに物事を考え取り組むことが出来る。
- ⑥松下幸之助
- ⑦患者様やご家族のお役に立つことができるように知識や技術を身に付け、笑顔と安心感を提供できる、信頼できる作業療法士を目指して頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いします。



理学療法士
宇都 陽華

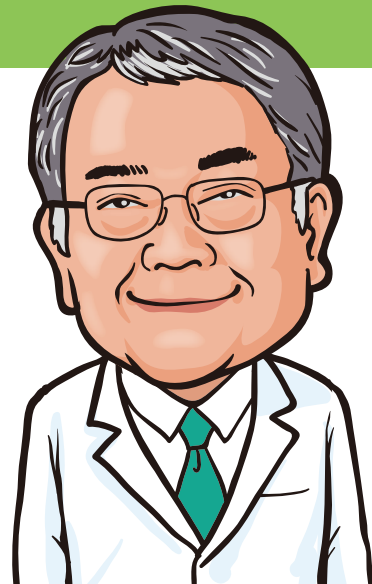
- ①宮崎県
- ②宮崎リハビリテーション学院
- ③1人はみんなの為にみんなは1人の為に
- ④映画観賞
- ⑤優しい所
- ⑥母親
- ⑦患者様のお役にたてるように精一杯がんばりたいと思います。よろしくお願い致します。



理学療法士
古里 俊二

- ①薩摩川内市
- ②鹿児島医療技術専門学校
- ③一期一会
- ④ドライブ、スポーツ観戦
- ⑤よく笑う所
- ⑥三浦知良
- ⑦先輩方にも御指導頂きながら、とてもやりがいを感じています。患者様に信頼して頂ける理学療法士を目指し、日々向上心を持って取り組みたいと思います。よろしくお願い致します。

知ってるようで知らない お肌の知識

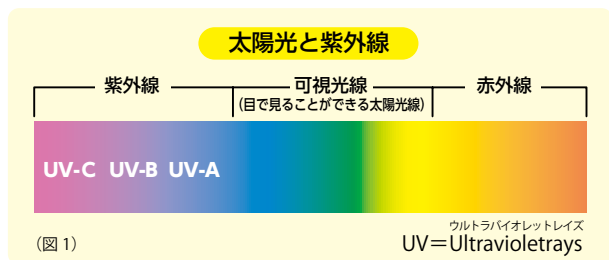


野辺ひふ科クリニック
野邊修明先生

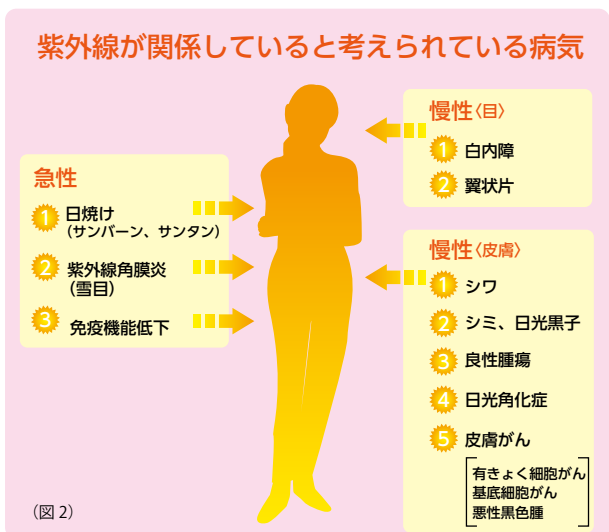
第2回 紫外線と上手に付き合おう

太陽のイメージは明るく、健康的である。しかし、その太陽光線にもリスクがあるというのが今回のテーマです。

太陽光線にはさまざまな波長の光線が含まれている。地球に届く太陽光線には、波長の短い紫外線UV、波長の長い赤外線、可視光線などがある（図1）。



UV-C は地上に届かないが、UV-A とUV-B の一部が地表に届いている。このUV-A とUV-B が日光浴や屋外での運動、作業などで長時間浴びすぎると日焼けを起こし、健康への影響が心配されるのである（図2）。



日焼けには太陽光線にあたって8～24時間ぐらいで現れる「サンバーン」と、4・5日～1週間ぐらいで現れる「サンタン」がある。「サンバーン」は「赤い日焼け」ともいわれ、皮膚が炎症を起こして赤くなり、ヒ

リヒリしたり、水ぶくれができたりする。「サンタン」は「黒い日焼け」ともいわれ、「サンバーン」が落ち着いたあとに現われ、色素沈着がしばらく続く。この「サンタン」を健康の象徴と錯覚するが、実は「**もうこれ以上日焼けをしないで!**」という悲痛な皮膚からの警告のサインと理解しよう。日焼けで皮膚にダメージを受けると、皮膚組織の変性、免疫力の低下、DNAの損傷などが起こり、将来的にはしわができやすくなったり、皮膚癌発症のリスクが高まったりする（光老化）。一生のうち浴びる紫外線の総量のうち80%が子どものうちに浴びるといわれる。でも、チョット待った！負のイメージばかりではない。紫外線には体内で造れない、骨代謝に必要なビタミンDを合成するという大事な働きがある。ビタミンDが不足すると「くる病」になることは学校で学んだことを思い出しますね。

私たちはビタミンDを食物と紫外線から取り入れている。でも、日焼けするほどの日光浴は必要ない。毎日摂っている食事と、ちょっと歩く、日陰で30分くらい過ごす。両手の甲程度の面積が15分程度当たただけで十分である。

紫外線は当たりすぎの方が問題だ。繰り返すが、紫外線は人体に良い働きと悪い働きがあるのである。
「もちろは つるぎ両刃の剣」といわれるゆえんである。

紫外線の浴びすぎを防ぐ対策

①紫外線の強い時間帯を避ける。

正午を挟む^{はさむ}2～3時間。

年間では4月から9月の間が強い（図3）。

これ以外の月もUVは0ではないので、年間を通じ

施設紹介

私どもの法人は、こどもさんから高齢の方々までの医療福祉に関係する全ての分野にわたり、利用される方々の個性、人間性を受け入れ、御支援と協力を目的とし、常に努力、向上して行く組織でございます。

医療法人 親貴会

理事長 海江田 正史
鹿児島県いちき串木野市 東塩田町 35 番地
電話 0996-32-7000 FAX 0996-32-7177

医療法人 親貴会 関連施設を ご紹介します



えんでん内科クリニック



えんでん内科 リハビリテーション



グループホーム てね



グループホーム もげ



シニアハウス おじゃんせ駅前



介護老人保健施設 ゆくさ



児童発達支援センター てんがらん



小規模多機能ホーム 小瀬倶楽部



『思いやりのある心豊かな医療および介護を提供します』

医療法人聖愛会 理事長 春田 壽英

超高齢社会を迎え、さまざまな問題が取り沙汰されている中で、患者様ご自身やそのご家族の皆様が将来や現在の生活に関する不安や悩みが増え、多くの困難が生じてきておられます。その患者様やご家族が元気で明るく健やかに過ごせますよう、可能な限りのお手伝いをさせていただきたく、職員一同一丸となり、地域の皆様に信頼される介護サービスを目指します。

事業内容

通所リハビリテーション（デイケア）では家庭で生活されている身体の不自由な方々の生活空間を広げることを目的としています。車での送迎、お食事・入浴サービスの他に、リハビリやレクリエーション等を行い、諸機能の回復・維持・向上を図れるように専門の医師や理学療法士が援助・指導いたします。

春田内科整形外科 通所リハビリテーション （デイケア）

管理者 春田 壽英
いちき串木野市京町 57 番地 1
電話 0996-32-2200 FAX 0996-24-0089



事業内容

介護老人保健施設（介護療養型）希望は、入所者の皆様が安心して穏やかな生活を送れますように、入所者のニーズに応じた医療および介護を行っております。看護・医学的管理のもとで、介護及びリハビリ、必要な医療、日常生活のお世話を行うことにより、入所者様の能力に応じて自立した日常生活を営めるように支援することを目的とした施設です。1日でも早くご自宅で生活できるように専門のスタッフがサポート致します。

入所・見学についてお気軽にご連絡ください。



介護老人保健施設 希 望

管理者 牧尾 善幸
いちき串木野市春日町 116
電話 0996-33-1217 FAX 0996-33-2886

居室（4名部屋）

窓から光が差し込み、明るく清潔感のある室内です。
4人部屋の他に2人部屋（2室）、
1人部屋（1室）がございます。

新しい 脳血管治療

矢！っておきたい
専門職の仕事

いちき串木野市医師会立
脳神経外科センター
副院長
石丸 浩一



新たな治療機器でより安全で 効果の高い治療を目指す

最新の急性期脳血管再開通治療として2014年3月にTrevor ProVue リトリーバーという名の新しい器具を用いた治療が認可されました。

脳梗塞を発症した場合、通常4.5時間以内であればt-PAという血栓を溶かす薬を注射して治療をすることができます。しかし、4.5時間が過ぎていたり、t-PAが無効であった場合には再開通を得る方法として血管内手術が必要となります。

Trevorは、そのような患者を対象に急性虚血性脳梗塞（原則として発症8時間以内）を治療する最新の血管内手術器具です。従来の器具よりも血栓の回収率に優れ、早期の血流再開が望めると期待されています。

当院でもこの器具を用いた治療が可能となり、最新の器具を用い、より安全で効果の高い治療を目指しています。Trevorは、ステント（金属の網目状の筒）が血栓内で広がることで、血栓そのものを絡み取ります。その血栓をステントごと引き抜くことで血流を再開させます。

①血栓が血管内に形成



②血栓にカテーテル挿入する



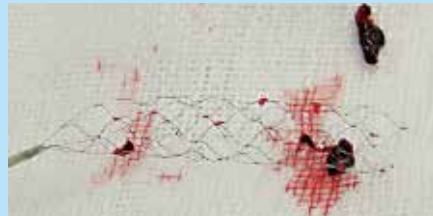
③ステントを展開し、血栓を絡め回収する



④血流が再開通する

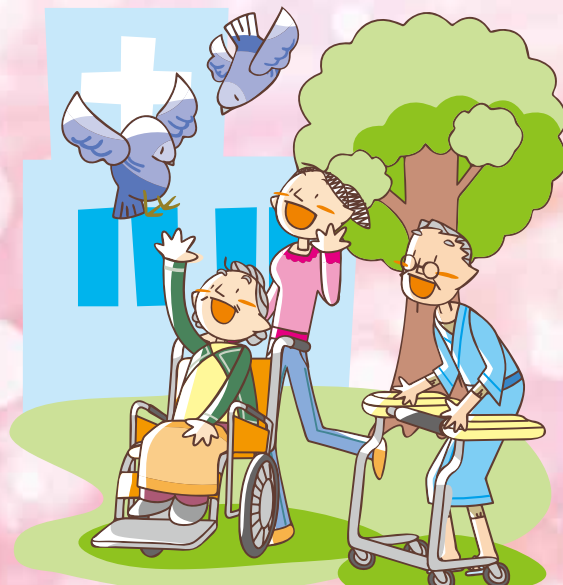


実際に回収した血栓の画像



病院における 認知症を有する 患者さんへの支援

看護部長 松原幸江



高齢化の進展に伴い、認知症の人の数は、平成 37 年には 700 万人に達すると予測されています。病院においても身体疾患の治療（例えば脳梗塞の治療）のために入院する患者さんの中に認知症を有する方が増加し、その対応に苦慮する場面が増えてきました。

認知症のある患者さんとそうでない患者さんが同じ病棟において療養するにあたり、療養環境を調整することは難しく、入院を契機に認知機能の低下があらわれてくる事例もよくあります。

看護にあたるスタッフは、患者さんの安全を確保し、身体疾患の円滑な治療を支援する一方で、認知症のある患者さんの尊厳に配慮した適切な対応も求められます。実際に安全確保のために必要な身体抑制と患者さんの尊厳を保持することのジレンマに悩むという声をよく聞きます。スタッフの疲弊や意欲の低下につながる心配です。

この背景として、病院において適切な認知症看護が確立されておらず、必要な教育・研修が十分に実施されていないことが挙げられるといわれています。

今回の診療報酬改定では、認知症患者さんのアセスメント（問題の分析から活動の決定）や看護方法などについて研修を受けた看護師を配置すること、身体拘束の実施基準を含めた認知症ケアに関する手順書を作成し活用する事で評価されるようになりました。当センターも昨年 2 名が認知症ケア専門士の資格を取得しました。今後も希望するスタッフがおり頼もしく思っています。是非、認知症患者さんの看護に生かしていきたいと思います。

また退院して地域に戻るといった際に必要な情報を共有し、継続したケアが提供されるよう病院と地域が連携していく必要があります。いちき串木野市は、平成 27 年に認知症ケアパスを発行しています。認知症の進行に合わせて受けられる支援など、わかりやすく書いてあります。安心して地域で暮らしていけるように、患者・家族にも紹介していきたいと思います。

認知症ケア専門士のロゴマークです。
専門士は右記マークを携帯しています。
お気軽にお声かけ下さい。



みんなの掲示板



訪問リハビリテーションの役割

当センターで訪問リハビリテーションを開始してから5年が経過しました。徐々に利用者数も増加し、日々、利用者やご家族の支援をさせて頂いております。

いま、介護分野は全国で注目されています。都心部においては介護を必要とする人が急激に増え、介護人材が不足すると予測されています。団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、地域包括ケアシステムの構築がどの市町村でも取り組まれている段階です。

我々の「いちき串木野市」においても高齢化率32.3%（平成26年度10月時点）で2025年には37.3%になると推計されています。くるべき時代に向け、どのような支援が必要なのかを常に考えながら、取り組んでいます。

平成27年度の介護報酬改定において「活動と参加」というキーワードが注目されました。訪問リハビリテーション事業所の理念でもある【生活者の豊かな未来を目指し「今」を支援する】のもと、活動と参加につなげる努力をしています。

訪問リハビリ事例

Aさん 70歳代 女性

大腿骨頸部骨折により他院にて手術・入院、リハビリを励み自宅退院となる。退院後に訪問リハビリが開始。目標は「受傷前の日課であった、近所の銭湯に再び通えるようになること。」

訪問リハビリでは屋外歩行練習、銭湯内での移動動作練習、実際の入浴動作練習等を行い、銭湯への復帰を支援。目標達成となり、今では悠々自適に銭湯に通われています。



Bさん 50歳代 男性

脳出血を発症し当センターで入院加療し自宅退院。訪問リハビリでは自宅内での生活動作（歩行移動、日常生活動作等）の安定を目的に介入開始。退院後数ヶ月を経て自宅内での生活が安定した。その頃、本人から家庭内役割（家事手伝い）の獲得や復職の希望が訴えとして挙がる。現在、上記目標に向かって継続的に介入している。



利用者・ご家族の皆様が住み慣れた環境で自分らしく生き生きと暮らすための支援ができるよう取り組んでいきます。当センター訪問リハビリテーションをよろしくお願い致します。

**平成28年4月より言語聴覚士（ST）の訪問リハビリテーションを開始しています。
理学療法士、作業療法士と連携して取り組みます。**

ST (Speech Language Hearing Therapist) って??

言語聴覚士はことば・聞こえ・飲み込みに障害のある方に検査、訓練、指導・援助を行い、よりよい生活を送ることができるように支援します。

編集後記

新年度の始まりを感じさせる新人紹介が今月号の1頁見開きです。9名の新人が来てくれました。不安感が大きいのではないかと思います。今年の新採用研修から臨床心理士による研修枠と研修後の個別カウンセリングを設けました。側面から応援していきたいと思っています。前回から始まっている野辺クリニック院長による「お肌の知識」は本当に知っているようで知らないことが載っています。皮膚の悩みは私も持っており、大変参考になります。あと数回先生にお願いしています。楽しみにして下さい。さて、表紙のウインドサーフィンの写真は3月中旬に吹上浜にドライブに行った際に撮ったものです。当日は幾度も荒波と戦いながら風を帆に受けて滑走していました。陸へ上がったサーファーは中年の方々でした。体力があるなどびっくりしました。診療報酬改定で病院も荒波が押し寄せています。上手く荒波を乗り切りたいものです。

（文責 四元）